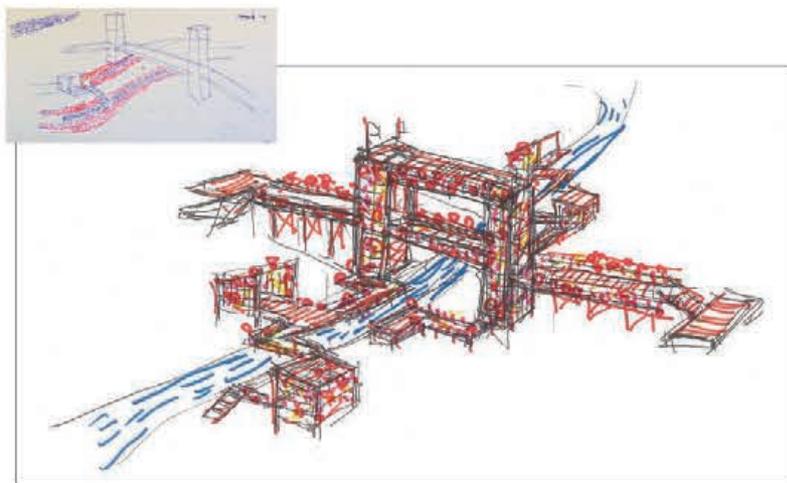


## アートまるケットができるまで 2年目のドキュメンタリー

- 2016
- 2月16日 各校と2015「花は色の棲家」の反省と次年度の準備についての会議 @美術館
  - 2月26日 各校と造作物のアイデア、花などの準備スケジュールについての会議 @美術館
  - 3月23日 各校と美術館の行う業務と各校からのイベント提案についての会議 @美術館
  - 4月16日 各校と花の設置、イベント日時と内容についての会議 @美術館
  - 5月7日 各校と、国際園芸アカデミーのプレイベントと、広報物、各校のイベント内容についての会議 @美術館
  - 5月15日 プレイイベント 国際園芸アカデミー「まきまきタネまき」 @美術館 庭園
  - 6月18日 プレイイベント 国際園芸アカデミー「小さな花のおひっこし」 @美術館 庭園
  - 6月18日 各校と美術館主催ワークショップと、造作物についての会議 @美術館
  - 7月16日 アートまるケット「ながれミながら」オープン



ラフイメージ



2年目は、庭に流れる川を「アートまるケット」に取り込んだ。プログラムのコアな時期も秋から夏に移した。夏休みの期間は、多くの人が川のほとりの床で、木陰で過ごした。人は昔から水辺に集まり、市を開き、互いの価値を交換し合ってきた。美術館の中にはそんな川が育んだ文化の産物が集まってきている。美術館の外の川に集まってきている人の中には自分たちの文化をここで育もうとする者たちがいた。川の水が流れる動きが、明日を明後日をイメージする力を後押ししてくれる。花の種ができる頃に、彼ら彼女らの成果の発表する収穫祭を行った。昨年の種から生まれた種、そして美術館の庭からこの地の文化が生まれてくる。

日比野 克彦

## アートまるケット 2016

### 「ながれミながら」

2016年7月16日(土)→9月25日(日)

会場：岐阜県美術館

主催：岐阜県美術館

岐阜新聞・ぎふチャン

後援：NHK岐阜放送局

岐阜県教育委員会

協力：岐阜県立国際園芸アカデミー

岐阜県立国際たくみアカデミー

岐阜県立森林文化アカデミー

情報科学芸術大学院大学(IAMAS)



## 概要

2016年は川をテーマに、庭園に流れる川を眺めることのできる造作物「ながれミながら」を制作した。川は人が集まり、様々な文化を生み出す場所という日比野のコンセプトを基に、来館者は庭園を彩る花に魅せられて川に集まり、川の流れの中に足を浸し、裸足のまま川を散策した。日比野のワークショップでは魚やトンボに見立てたデッキブラシで川底を磨き、和紙で花を作って丸太に乗せて川に流した。また、館から募集した各団体が庭園で様々な活動を行い、最終日の収穫祭で練習の成果を発表した。来館者は収穫祭で植物から種を採取し、持ち帰った。会期中「ながれミながら」を中心として協力校4校が館内外でそれぞれの特色を活かしたイベントを開催した。国際園芸アカデミーは「ながれミながら」を彩る花を育成し、園芸に親しむワークショップを行った。国際たくみアカデミーは水車を制作し、川の中に設置した。森林文化アカデミーは幼児を含む、親子を対象に木を使ったワークショップを行った。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)は川を彩るワークショップと館内外をつなぐ仕組みを作った。美術館はサテライト会場のぎふ清流文化プラザで、庭園で育てた綿を使って、ワークショップを行った。

## チラシ



## 「ながれミながら」

「ながれミながら」は庭園の各所に設置された造作物で構成された。庭園を流れる川には、大きな橋1基と小さな橋2基を、川のほとりには、川床1つと川床に張り出した東屋1軒を設置した。それぞれの周囲を、国際園芸アカデミーと美術館で育てた、色とりどりの花やつる草で飾った。大きな橋は全長およそ30メートルあり、高さおよそ7メートルもあるタワーのような橋脚を設置した。2015年のワークショップで参加者が作った和紙の花と、日比野が書いた木製プレート大きな橋に設置した。川のほとりの石畳の上には、飛び石のように木の輪切りを何十枚も敷き、庭園の各所をつないだ。



屋根には魚を設置



小さな橋と東屋



大きな橋と川床



## 植物リスト

- メランポジウム
- マリーゴールド
- ジニア
- アサガオ
- しだれアサガオ
- ルコウソウ

- 風船かずら
- センニチコウ
- アゲラタム
- サルビア
- ホウセンカ
- ヒマワリ



## カレンダー 2016年

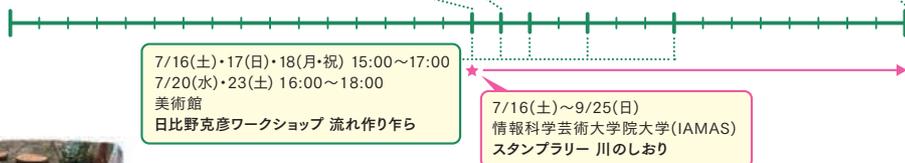
5月



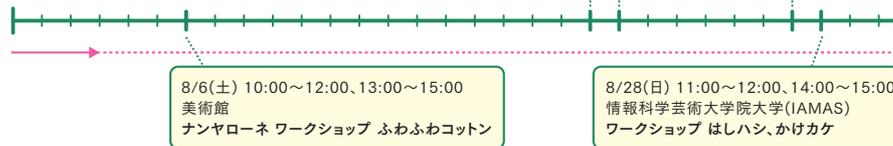
6月



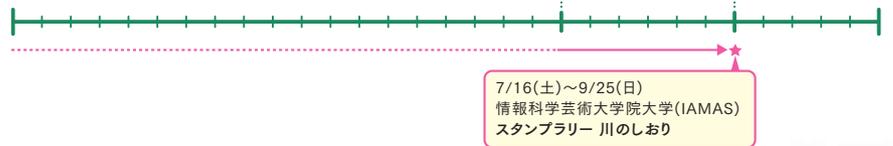
7月



8月



9月





PRE-EVENT

## まきまきタネまき

概要

OUTLINE

担当：国際園芸アカデミー  
 日時：2016年5月15日(日) 10:00~15:00  
 場所：美術館 庭園  
 スタッフ：国際園芸アカデミー 14人  
 美術館 5人  
 参加費：無料  
 参加人数：112人



チラシ

会期中に咲く花を準備する、会期前のプレイベント。国際園芸アカデミーの学生が指導し、参加者は庭園の造作物に取り付けるプランターとハンギングバスケットにマリーゴールド、ルコンソウ、ジニア、メランポジウム、ヒマワリ、風船かずら、ホウセンカ、アサガオなどの種まき、苗挿しを行った。その後、昨年のアートまるケットで収穫した花の種をプレゼントした。イベントと並行して、スタッフは700鉢のプランターとハンギングバスケットに種まきを行った。終了後、移動して美術館で育成した。



会場の様子



まいた種の上に土をかぶせる作業



プランターに種まき



水やり



苗挿し

作品の一部になるのが楽しみ。  
 (岐阜市・30代男性)

子ども(4歳)の興味が広がり楽しめました。  
 (岐阜市・30代女性)





PRE-EVENT

## 小さな花のおひっこし

概要

OUTLINE

担当：国際園芸アカデミー  
 日時：2016年6月18日(土) 10:00～15:00  
 場所：美術館 庭園  
 スタッフ：国際園芸アカデミー 16人、  
 美術館 3人、他  
 参加費：無料  
 参加人数：19人



チラシ

造作物に取り付けるプランターへ、苗を植替える会期前のプレイベント。苗は国際園芸アカデミーであらかじめ栽培した。国際園芸アカデミーの学生がインストラクターとなり、参加者と一緒に600鉢のハンギングバスケットへの植替えと100鉢のプランターへの種まきを行った。参加者には昨年のアートまるケット「花は色の棲家」で収穫した花の種をプレゼントした。終了後、スタッフでプランターを庭園の仮設棚に移動し、美術館で育成した。



準備の様子



植替え



水やり



「清流の国ぎふ」マスコットキャラクター「ミナモ」取材対応



仮設棚





OPENING EVENT

# まきまきヒマワリ

概要

OUTLINE

担当：国際園芸アカデミー  
 日時：2016年7月16日(土) 10:30~12:00  
 場所：美術館 庭園  
 スタッフ：国際園芸アカデミー 24人、  
 美術館、他  
 参加費：無料  
 参加人数：33人



「まきまきヒマワリ」でまいて  
 咲いたヒマワリ

会期中に咲くヒマワリの種をまくオープニングイベント。国際園芸アカデミーの学生が案内し、参加者はすでに花が咲いているプランターの中に追加の種をまき、各自のネーム札をつけた。その後、開花時期を知らせるカードを参加者に配布した。開花したヒマワリは8月下旬から、会期終了前の9月上旬まで鑑賞できた。



国際園芸アカデミーの学生が案内



ネーム札に記入



来賓の方も一緒に種まき



集合写真



9月に満開になったヒマワリ





日比野克彦ワークショップ なが  
流れ作り乍ら

概要

OUTLINE

担当：美術館

日時：2016年7月16日(土)・17日(日)・18日(月・祝) 15:00～17:00  
7月20日(水)・23日(土) 16:00～18:00  
9月19日(月・祝)・25日(日) 15:00～17:00

場所：美術館 庭園

スタッフ：日比野克彦、美術館 1～3人、他

参加費：無料

参加人数：7月16日 31人、7月17日 46人、7月18日 31人、7月20日 14人、  
7月23日 23人、9月19日 8人、9月25日 83人

「ながれミながら」にちなみ、川で遊ぶワークショップ。参加者は日比野が魚やトンボなどの絵を描いたデッキブラシで川底を磨いた。併せて、昨年同様、岐阜の和紙を使って花を作るワークショップも行った。参加者は足を川につけ、輪切りの板の上に和紙の花を乗せて流した。ワークショップの開催時間以外にも、川底磨きを行った。

シンプルな素材と手法ですが、子供の自由な発想でクリエイティブな展開を見ることができました。 (各務原市・40代女性)

子ども達のアートな心が少しずつ開いてみんな一生懸命作ってすてき (石川県金沢市・60代女性)



モップをデザインする日比野



川底磨きが楽しくなるデザイン



川底磨き



花づくりの会場の様子



丸太に和紙の花を乗せて流す様子